平成30年度　島田実業高等専修学校　第1回学校関係者評価委員会(5月26日開催)

設置者確認;5月31日　理事長　角田 修一　印

分野・領域	評価項目	具体的取り組み	自己評価	具体的な成果・反省	前年度学校関係者評価委員からの意見とその対策
教育環境	生徒・職員の生活環境の向上に努める。	年に２回は、修繕箇所の点検を実施する。校内環境整備の打ち合わせ計画を行い、年度末・年度初め・夏休み期間等を利用し、校内整備を進める。今年度は特に事務室や応接室を中心に整備を進める。	A	事務室の板張りによるパーティションづくりや校舎入口床の塗装及び絵入れ、生徒と協力しての講堂階段の塗装整備を進めた。それにより職員、生徒双方の学校を大切にする愛情を育むこともできた。校内整備の計画や実施が充実できていた。	校内整備が随時行われており、来校する度にバージョンアップされていると感じる。ハンドメイドでやわらかい雰囲気が校内に満たされており、生徒にも安心感を与えている。
	職員も生徒も、学校全体で環境を整えていこうとする意識を持ち、積極的に行動できるようにする。	折にふれて環境整備を話題にし、掃除への取り組みや、学校の各場所の使い方など、環境整備に積極的に参加できるよう指導する。職員は各教室や校内の各場所を、掲示物を工夫するなどして気持ちよくあたたかみのある環境になるよう積極的に整える。職員室や印刷室、相談室等の整理整頓も徹底する。	B	職員室前や事務室前に行事写真を掲示したり、黒板のコメントを書いたりと、あたたかみのある雰囲気になるよう継続的に手を入れてきた。各クラスもLHRの内容や写真、新聞記事等、掲示物を工夫し丁寧に環境作りをすることができていた。	受付前黒板や事務室前黒板など、あたたかい言葉をいろいろな場所で見ることができ、やさしい雰囲気の掲示物との相乗効果で生徒の心にメッセージが染み込むのではないか。毎日継続して見ることで心が耕される。ここまであたたかい学校は他にないと思う。
教育課程	生徒の希望や学力に合わせたカリキュラムを設定する。	1年次から3年次までの生徒情報データを一元化し、それらをもとに生徒の実情や希望にあった教育課程を設ける。	B	生徒情報表を作成し、データを一元化することができた。しかし、全員が活用することができなかったので、年度初めや面談等でしっかり活用していきたい。	生徒がどのような傾向を持っているかを次年度の担任に引き継ぐ仕組みを上手く活用することで、保護者との対応もより円滑に行いやすくなり、生徒自身も安心できる。
	行事を通して集団へのかかわりの中で、個人の責任や役割を認識させる。	ふれあいウォーク、島実フェスタなど行事のあり方を工夫し、生徒間や生徒と保護者または中学生など外部の方と関わる場を設ける。また、自遊祭に向けての活動を通じ、周りの人と関わりながらものを作り上げていく達成感や喜びを味わうことができるよう、活動内容を工夫する．それらを経験することにより、豊かな感情を育てていく。	A	年度当初に春の遠足を実施し、その中で他学年と関わる時間を設け、関係を深めることができた。また、今年度も島実フェスタを行い、おもてなしの心遣いや職員・生徒間での連携を学び、学校祭への意識付けをすることができた。学校祭では、３年生が中心となり、どのようなテーマで行っていくかを考え、そのテーマに向かって団結することができた。また、その中で他学年の生徒との関係を築くことができ、交流を深めることができた。それらの活動を通し、自己責任のあり方を学ぶとともにそれぞれの自信につなげることができた。その他にも、校内ライブやクリスマスコンサートを行い、生徒が積極的に参加する機会や自信をつける場を設けることができた。学校行事全般で中学生や保護者の方とも交流する機会を設け、さまざまな方との関わりを持つことができた。	みんなで協力して一つのものをつくり上げることで、最後に感動を共有できる。特に学校祭で行われる人形劇については、卒業生も保護者も大変楽しみにしており、学外でも話題になることが多い。校内ライブで生徒と保護者が共演できたことも良かった。
教科指導	一人ひとりにきめ細かい教科指導をする。	習熟度別のクラス編成により、生徒一人ひとりに目を配り、きめ細かい教科指導をする。	A	簿記、情報処理、数学、英語は習熟度別クラス編成で授業を行った。検定後や試験後に担当間での確認を入れ、それぞれの学力にあったクラスでの授業を行うことができた。また、主欠席の状況や定着度により、その都度クラス替えをした。また、各クラスでの学力差が大きいため、それぞれに見合った授業を展開した。	補習には参加していなくても補習プリントを自宅に持ち帰りしっかり自習している生徒もいる。自宅で学習したい生徒の為にスカイプ等を利用して指導をするのも良いのではないか。検定取得のために努力することの大切さを卒業生から在校生に伝えてもらえば、より在校生の心に響くのではないか。
	基礎学力を身につけさせる。また、強要を深める時間を設け、今後の生活の中で応用できる力を身につけさせる。	月曜日と金曜日の特別タイム（朝の15分）を利用し、書写や天声人語の写しなどに取り組み、丁寧に字を書く習慣を身につけさせる。また、その時期に必要な者を取り入れたり、教養を深め、応用力を身につけるためにどのようなものが必要か検討し、取り入れる。	B	年度初めに、どのような力を身につけさせたいか、どのような取り組みができるかを検討した。その中で、職員が「記憶」や「自分で心を手当てする方法」、「ジャック・ラカン」について発表をし、とても有意義な時間となったが、それらを活かしきることができなかった。各学年、書写をベースとし、その都度必要なものを取り入れていった。学年により必要となってくる力が異なるので、他学年とアイディアを共有しつつ、今後は取り組んでいきたい。	
	資格の取得率を上げる。	①簿記では１年の５月から習熟度別クラス編成をし、情報処理では２年次から分野別（プログラミング・表計算）クラス編成をして、各自の希望する資格取得を目指す。 ②簿記・情報処理検定の２週間前から放課後に補習を実施する。 ③簿記検定の２週間前から時間割を変更して検定対策週間を実施する。	B	各検定の前に、特別時間割を組み、補習を入れるなどして、検定取得を目指した。ほとんどの生徒が、意識が高く、一生懸命取り組んでいたが、なかなか意欲が上がらない生徒もいた。今後は、意欲が上がらない生徒に対しての呼びかけを工夫していきたい。	
進路指導	就職決定率を上げる。	就職を希望する生徒それぞれに担当職員を2人ずつ付けて企業との連絡、会社見学への同行、履歴書記入指導、面接練習を行う。	A	就職希望者は７名、就職者は４名であった。今年度も一人ずつ担当がついてきめ細やかな指導が出来た。生徒によって動き出す時期に違いがあり、現在も支援中である。また、４名中３名が２～３社目で内定をいただいた点から、早い時期から就職に必要な力の育成が必要であると感じた。さらに生徒と会社とのマッチングをよく見極めたうえで、指導を行っていきたい。	各種書類や面接など指導や準備をきめ細やかにしっかりしてもらっている。早めの活動が大切であるため1，2年次から就業意識を身に付けたい。特に欠席については企業から厳しく判断されることを伝え、就職希望者については早めの改善を促す方が良い。また今後もサポステ等の外部からの支援を有効に活用することで、就職先の情報提示などを迅速かつ細やかに行うようにしたい。
	進学校の新規開拓	既存の進学校にとらわれずに大学等での高等専修学校卒業者の推薦入学試験の可否を確認交渉していく。	A	今年度は新規開拓校として初めて山梨英和大学へ１名受験をした。近年県外志向が少なくなってきている印象があるが、来年度も必要に応じて新規開拓を行い、進路先の幅を広げたい。	
	進路未決定者への対応	職業訓練校または就労移行支援センターに入所の可能性がある生徒の保護者への手帳取得への理解のための説明	A	今年度進路決定率は高く、未決定者２名も就職活動を続けている。また今年度はサポステからの提案もあり、就職希望者は全員サポステで面談・登録するなど、学校外での支援の輪も広がってきている。今後も個別の事情に応じて必要な支援を、早い段階から行っていきたい。	
入試広報	学校説明会・相談会の充実を図る。	学校説明のみにとどまらず、中学生や保護者が安心できたり希望を持てたり、学びになるなど、さらに内容を工夫検討していく。入試課以外の職員や新職員がきちんと対応できるよう、職員の育成もしていく。	A	学校説明会では保護者対象の説明の時間を設け、学納金や専修学校の説明、本校が技能連携制度を行わない理由などを深く理解していただくと共に、不登校や発達障害の子どもに対する捉え方についてなど、保護者を力づけられるような内容にすることができた。新職員の育成も出来てきている。	入学者数が増えていることからも広報活動の成果は十分に感じられる。地域によってはまだまだ知名度が低いところもあるので、データ分析の結果を生かしてもらいたい。
	データ分析を行う。	学校説明会の時期や参加者数、入学への結びつき、出身中学校の傾向などを分析し、より効果的な広報活動を展開する。年間の説明会の時期や中学校訪問の計画に生かす。	B	一年生保護者対象にアンケートを実施し、入学に結びついた理由や決定時期などを調査した。その結果や各時期の説明会参加人数を来年度の計画に生かしていきたい。説明会への参加状況、出願状況を踏まえ中学校訪問を実施した。	

研修	内部研修を行う。	校内研修会を実施する。各職員が持ち回りで研修成果を報告する。	A	「思春期のこどもたち」「学び」「経営理念」などについて、積極的に校内研修を実施した。また、今年はフェスタに向けて三人の職員による研修発表（「記憶」「ストレス」「心」）を実施した。	校内の研修が充実していると感じた。同じ職場内だけでは見えにくいことも、外部研修を通じて認識しやすくなることもある。外部研修の大切さも改めて感じた。
	外部研修を行う。	諸団体の実施する各種研修会に参加する。	B	こども精神保健フォーラムへ参加は意義深いものであった。年に二回行われるが、検定と重なったため、参加できる職員に限りがあり残念であったものの、校内報告によって情報を共有できた。	
その他の教育活動と公開性	保護者と協力体制を築く。	①学校祭、島実フェスタ等の行事を保護者と協力して実施する。 ②家庭訪問（全学年）、保護者会、HR会等で保護者と情報を密に交換する。	A	全学年で家庭訪問を行うことにより、家庭の状況を把握しやすくなり、家庭と協力しながら生徒指導を行うことが出来た。学校行事でも夏の島実フェスタ、校内ライブや進路説明会、公開授業などで保護者が学校行事に参加できる機会を増やした。特にフェスタにおける保護者会のまとまりは目を見張るものがあり、その後の協力体制を強化することができた。	保護者との協力体制は良くできている。保護者会役員からもとても活動しやすく楽しかったとの感想があった。公開授業については回数をもう少し増やしていただきたい。Facebookだけでなく、ツイッターやLINE等も利用してはどうか。
	地域との連携をはかる。	学校行事等で地域と関わる際は、書面だけでなく地域の家庭を訪問して協力をお願いしたり、パンフレットを配布したりして、本校への理解を深め、連携を模索する。	B	学校祭の準備期間に生徒と一緒に地域の家庭を訪問した。新聞広告を利用し、学校を理解してもらえるように、積極的に活動できた。本校の特性を生かした地域への貢献をより考えていきたい。	
	外部との連携をはかる。	外部の教育施設や中学校と連絡を密にとりながら、本校の生徒の状況を確認しあう。	A	入学予定者に対する中学校との情報交換を密に行った。また、必要に応じて医療機関との情報交換を行った。	
	学校情報の発信をする。	ホームページを使って、学校の基本理念、カリキュラム、学校生活、進路情報、資格取得状況等を公開する。Facebookを利用した活動内容の紹介を実施する。	A	Facebook を利用して、全職員持ち周りで、卒業生と情報を交換し、学校のリアルタイムの情報を中学生など外部に向け、発信した。ホームページも更新担当を付け新しい情報を公開することができた。	
安全･危機管理	緊急時の対応を確立する。	①地震や火災等の災害時の対応について、校内災害対策組織図、職員の動き、避難経路等確定し訓練をしてきている。 ②防災訓練を年２回以上実施して、職員・生徒の防災意識を高める。	B	通常授業中と特別活動中を想定した避難訓練を適宜行い有事に備えた。昨年度から非常食の備蓄を入学時に用意し卒業時に返却する仕組みを整えた。 南棟奥の破損した扉の修繕や撤去ができてない箇所もあるので優先順位を決めて対応したい。	正門の破損に関しては防犯面からも早急な対応が必要である。特に夜間は危険であるので、防犯カメラを設置することも検討したい。
	防犯体制を確立する。	防犯装置を設置して、校内に教職員が不在時に外部からの侵入を防ぐ。	B	進入経路には立て札で警告をしているが、側溝付近などの公用地について近所の方の通行等規制して良いかどうか判断の難しい部分がある。正門が破損している状況が続いているので早めに修繕を計画したい。	
	情報セキュリティを守る。	2005年4月個人情報保護法の施行に伴い、生徒及び保護者の個人情報の取り扱いには十分に注意を払い、漏洩を防止する方策を立てている。	A	生徒の個人情報については学校外へ持ち出さないよう指導を徹底し、インターネットに接続したコンピュータでは個人情報を取り扱わないようにした。 また、機密文書についても業者へ依頼し処分するようにしている。	
保健衛生	生徒および教職員の健康管理をする。	①生徒に関しては毎年度身体計測、内科検診を校内で実施する。新入生は胸部X線間接撮影も実施する。 ②教職員に関しては、毎年度健康診断（35歳以上の教職員は人間ドック）を受けるように指導する。 ④感染症発症時の対応については、日頃から予防をじゅうぶんに呼びかけ、感染があった場合は速やかに出席停止や臨時休校の措置をとる。	A	身体計測や内科検診の欠席者や未検診を減らすために、期間限定ではあるが校医で受診すれば費用は学校負担とすることを周知できた。結果は必要に応じて担任を通じて保護者へ報告し、よりよい学校生活を送るために役立てることができた。胸部X線間接撮影は欠席なく全員検査することができた。結核診断のための重要な検査になるので今後も１００％実施を継続できるよう呼びかけたい。教職員の健康診断については全体でも確認し全員が期限内に受けることができた。今年度はインフルエンザ罹患者がとても多かった。発熱や体調不良で早退などする場合は病院受診を勧め集団感染を防ぐことができた。小黒板を利用したり、ＳＨＲで手指のアルコール消毒などの予防についての呼びかけも定着している。生徒の病気や怪我について会議で報告し職員間で情報共有できた。	他校では今年度は教職員の間にもインフルエンザが流行したところが多かったようだが、本校では教職員の羅漢者はでなかった。今後とも健康管理に気をつけていきたい。朝のSHRでの手のアルコール消毒をする際に、一人一人に「おはよう」等の声かけを行うことで、関係性も広がるという良い影響もみられた。
	衛生に関する点検を行う。	①毎年度水道水検査を実施する。 ②インフルエンザ等の感染症対応のため教室等各場所に消毒用アルコールを設置しマスクを揃える。 ③毎年度校内環境安全点検を実施する。	A	今年度も例年と同じ時期に水質検査を実施し問題はなかった。インフルエンザ等の感染症予防のために各教室に消毒用アルコールを設置し各クラスごと朝のSHRで手指消毒をすることが定着してきた。マスクは必要に応じて使用できるよう事務室に常備している。また緊急時のために備蓄もしている。今年度あまりできなかったが、引き続き、校内環境安全点検は管理課と連携し安全な環境を整えたい。	

【5月25日開催 学校関係者評価委員会による意見･総評】

教育課程については、一般的には「勉強のための勉強」になりがちであるが、本校では行事なども重視しており、「生きることに向かっていくための勉強」という考え方が素晴らしいと思う。生徒ひとりひとりの力量に大きな差があるため、カリキュラムを設定する際に大変苦労されていることが感じられる。学校に全ての責任を押しつけるのではなく、生徒や保護者が学校と一体となって頑張っていこうという姿勢がとても良い。学校祭などの行事や校内整備などを通して、教員と生徒・保護者が一緒に活動を行う機会が多いのが良い影響を与えていると考えられる。

学習指導については、生徒の学習へのモチベーションを上げることが重要であり、そのためには現在勉強している内容が将来どのように役に立つのかを早期に理解することが大切である。教員からの働きかけはもちろん、身近な先輩である卒業生から、在学中に勉強したことや取得した資格が卒業してからとても役にたっているということを、実感を持って生の声で語ってもらえれば効果が高い。そのような試みは現在も毎年２月の進路説明会で行われているようであるが、もっと早いタイミングで行うことでより高い効果をあげられるのではないか。また進学が決まった学生については、進学先に在籍している卒業生と情報交換をすることができる仕組みを学校側で用意してあげられると、科目選択などがスムーズに行えて良いのではないか。

資格取得については、補習の際に先輩が後輩へ教えてあげるなど生徒同士で教えあう仕組みを取り入れても良いのではないか。教えられる側だけでなく、教える側にとっても記憶が定着しやすく学習効果が高いと思う。また学校の負担になるかもしれないが、より多種多様な検定へ挑戦する機会を用意することで、様々な得意分野を持つ生徒たちのやる気を喚起することができるのではないか。検定受験料については、本校は授業料から捻出しており、生徒側は同じ検定を何度受けても追加費用は発生しない。これは他校にはあまりない特典でありもっとアピールした方が良い。ただ、生徒が無料で何度も受けられるという感覚になってしまうと、安易な理由で検定当日に欠席するなどモチベーションの低下につながる可能性もあるため、同一検定を複数回受験する場合には、２回目以降は受験料を半額でも生徒側に負担してもらうような仕組みを設けてはどうか。

地域との連携については、地元の元島田地区だけでなくより広い地域に働きかけ、もっと多くの人に本校の存在を知ってもらいたい。本校が何をしておりどのような力を持っているのかを知ってもらう必要がある。地域還元のためにクリーン作戦を行ったり、老人会と連携したりするのも良いのではないか。

現在も保護者会総会の際などに学校の満足度について大まかなアンケートを行っているようだが、より詳細な項目について生徒、保護者のそれぞれから評価してもらってはどうか。それにより満足度が高いところと低いところを一層把握しやすくなる。またその評価結果を生徒、保護者にフィードバックしてもらえるとなお良い。